

# 日本史探究 (旧日本史B)

日本史探究 (旧日本史B)

〔I〕 1と2の文章を読んで、後の問いに答えよ。

- 1 縄文時代の墓は、地面に穴を掘りそのまま埋葬する ( A ) という墓が造られる。この墓に、死者の霊が生者に災いをおよぼすこと恐れ手足を折り曲げた (ア)埋葬を行った。

弥生時代になると、稲作文化が伝わるのとはほぼ同時期に、手足を伸ばす (イ)埋葬へとその方法も変わっていく。この埋葬方法にともない死者を埋葬する墓の形も変わり、箱式石棺墓や木棺墓などが造られるようになる。また、北部九州では、小石を配した上に大石を乗せた ( B ) や、特製の大型の土器に死者を収める ( C ) が見られるようになる。これら地上を掘り込んで地下に埋葬するもののほかに、周囲に溝をめぐるせその中心の盛土の中に埋葬する ( D ) が造られるなど、縄文時代に比べ、多様な墓が出現するのが弥生時代の特長である。

3世紀中頃には、近畿地方から瀬戸内海沿岸を中心に土を盛った墓である古墳が出現する。これらの古墳は、墳丘の形、埋葬施設の構造、副葬品など強い共通性をもって築造されることから、広範囲の政治連合であるヤマト政権が成立したと考えられている。遺体を安置する施設として、墳丘の頂上部に大きな竪穴を掘った ( E ) や粘土槨などが埋葬施設として造られる。5世紀になると、我が国で最大規模を誇る前方後円墳である ( F ) が、大阪府堺市に築造される。6世紀になると、朝鮮半島から伝わった埋葬施設として、巨石を積んで横口から入る ( G ) が出現する。

- 2 5～6世紀にかけて大君を中心とした政権では、豪族たちの血縁をもとに構成された ( H ) と呼ばれる支配体制がつくりあげられる。

7世紀初頭には、厩戸王らにより王権組織の再編が試みられた。その一つが氏族ではなく個人の才・功績に対して、日本で初めての冠位・位階の制度である ( I ) と、仏教や儒教の思想を取り入れて、朝廷に仕える役人の心得を示した ( J ) が定められた。

645年の「乙巳の変」後、孝徳天皇が難波宮で即位し、その翌年には (ウ)「改新の詔」が示された。この政策により、律令国家へと大きく舵をとることになる。ま

た、天武天皇は684年に、豪族たちを天皇を中心とした新しい身分秩序に編成した ( K ) を定めた。

奈良時代になると律令体制が確立し、(エ)全国を区分しそれぞれに長を置いた。それぞれの長は、中央から赴任した ( L ) と、在地の豪族から選出された ( M )、有力な農民から任命された ( N ) とよばれた。

平安時代に入ると、842 (承和9) 年の承和の変で、藤原良房は、橘氏・伴 (大伴) 氏を退け、清和天皇が即位すると、866 (貞観8) 年の応天門の変で、皇族以外で初めての ( O ) という要職に就いた。さらに光孝天皇の即位にあたり、( P ) として天皇を補佐した。このような政治のあり方を ( Q ) という。

問1 A～Qにあてはまる語句を下記の語群から選び、記号で答えよ。

- |              |                  |        |        |
|--------------|------------------|--------|--------|
| ①三角縁神獸鏡      | ②誉田御廟山古墳 (誉田山古墳) | ③摂関政治  | ④摂政    |
| ⑤本能寺の変       | ⑥甕棺              | ⑦国司    | ⑧氏姓制度  |
| ⑨古墳          | ⑩横穴式石室           | ⑪冠位十二階 | ⑫方形周溝墓 |
| ⑬関白          | ⑭外戚              | ⑮土壙墓   | ⑯里長    |
| ⑰大仙古墳 (大山古墳) | ⑱八色の姓            | ⑲支石墓   | ⑳郡司    |
| ㉑竪穴式石室       | ㉒憲法十七条           | ㉓荘園    | ㉔磐井の乱  |
| ㉕大宝律令        | ㉖班田収授法           |        |        |

問2 下線部 (ア) のこの埋葬方法を何というか。

問3 下線部 (イ) のこの埋葬方法を何というか。

問4 下線部 (ウ) について下の①～⑤の文章のうち、間違っているものを一つ選び、答えよ。

- ①初めて戸籍と台帳が作られ、それをもとに口分田が与えられる班田収授法のしくみが作られた。
- ②官僚組織としての二官八省 (神祇官・太政官・中務省・式部省・治部省・民部省・大蔵省・刑部省・宮内省・兵部省) が定められた。
- ③公地公民制により、天皇や豪族の土地や民の私有制が廃止され、すべて天皇の所有とされた。

④労役による税制から、田や戸に対して課税を行う、納税が規定された。

⑤地方を国や郡に分け、それぞれを治める役人を設置し、地方行政についても天皇が統治をする中央集権化が行われた。

問5 下線部 (エ) の区分を全て答えよ。

〔Ⅱ〕 次の1～4の文章を読んで問いに答えよ。

- 1 足利義政の妻である日野富子が、義尚を生んだことで、將軍後継問題が浮上する。この問題に斯波氏の家督継承問題もからみ、(ア)年に(イ)が勃発した。これにより、東軍の細川勝元と、西軍山名宗全が京都を中心に11年間にわたり戦うことになる。
- 2 天智天皇が亡くなると、皇位継承をめぐる、子の天智天皇の弟の(ウ)とが対立する。その結果、弟の(ウ)が天智天皇を倒し、天武天皇となった。これらの争いを(エ)という。
- 3 織田信長は、今川義元を(オ)でやぶり、その15年後には武田勝頼を(カ)でやぶった。その後、琵琶湖に面した地に安土城を築いて①楽市・楽座の令を出した。
- 4 土地の給与を通じて、主人と従者が奉公の関係によって結ばれる制度を(キ)というが、この(キ)をもとに成立したのが鎌倉幕府である。

問1 1～4のA～Kの括弧内に入ることを答えよ。

問2 1～4の文章を時代順に並べよ。

問3 下線①について、どのような令であったか45字以内で説明せよ。

[Ⅲ] つぎの文章を読み、以下の設問に答えよ。

1716年に七代将軍が死去すると、徳川本家の血筋でない、(ア)が紀州徳川家より八代将軍になった。(ア)は幕政の改革に取り組んだ。この改革を当時の年号をとって(イ)改革と呼ぶ。疲弊していた旗本・御家人を救うため、(ウ)という法令を出して、金銭貸借の訴訟を幕府は受け付けないということを行った。また幕府財政の逼迫から、大名たちから1万石につき100石を上納させ、かわりに参勤交代の江戸滞在期間を半減するという(エ)の制度を実施した。この間に新田開発や年貢増徴をはかり、幕府の収入増をはかった。年貢増徴のため検見法だけでなく、一定期間定額の税をかける(オ)という方法もとり入れた。年貢増徴に天候不順による飢饉が加わると、百姓一揆の発生数は増大し、江戸でも打毀(うちこわし)が発生した。

火事の多かった江戸の消防制度も改革された。(エ)制度中は大名の江戸滞在期間半減で大名の火消や火の番の絶対数が減少していたこともあり、町方独自の(カ)を組織させた。これはいろは順に「い組」「ろ組」「は組」などの組名をつけられた。庶民の意見を聞くために、評定所門前に(キ)を設置して、意見を投書させたが、匿名の文書は開封されず焼き捨てられた。意見を取り入れた例として、庶民を対象とする医療施設の(ク)の設置がある。治療施設と薬園がおかれ、跡地は現在小石川植物園になっている。

(ア)は将軍家を安定させるため、尾張徳川家を処罰し、自分の子を将軍にするとともに、次男と四男に田安德川家と一橋徳川家をおこさせた。以降将軍継嗣は本家に問題あるときは、紀州徳川家、田安德川家、一橋徳川家より選ばれることになる。

問1 ア〜クに入る適切な語句を記せ。

問2 (エ)の制度は、財政再建のための窮余の一時的な策で、8年間のみ実施して参勤交代制度を復旧させている。どのような問題を生じさせると考えられるか、40字以内で述べよ。

問3 毎年作物のできばえを確認して税率をきめる検見法から、一定期間定額税の

(オ)にかえることにより、年貢増徴ができるのは、どうしてか。

60字以内で述べよ。

問4 田安德川家、一橋徳川家に、のちにつくられた清水徳川家とあわせて、何と呼ぶか。

[Ⅳ] つぎの文章を読み、以下の設問に答えよ。

桂太郎内閣は、日露戦争終結の翌年に退陣し、かわって立憲政友会総裁の西園寺公望が組閣した。立憲政友会は鉄道や港湾の拡充方針をかかげて地方有力者の指示を集めていた。この政権はまず同年中に鉄道国有法を成立させた。資本家は鉄道に投資しなくなったため、とくに地方の鉄道普及が低迷した。1908(明治41)年総選挙では勝利したが西園寺公望は政権を桂太郎にゆずった。地方の鉄道普及のため、大幅に条件を緩和した軽便鉄道法がつけられ、県営や民間の鉄道は再度普及しはじめた。第2次桂政権では、外交関係では韓国併合や日米新通商航海条約(別名小村条約)の締結などがあった。国内では大逆事件が起き、これを機に社会主義への弾圧がより強くなった。特高警察(特別高等課)という思想警察も設置された。たかまる労働運動に対しては工場法も制定したが、きわめて不備な内容であった。

1911(明治44)年再度西園寺公望が組閣した。財政難のなかで陸軍の2個師団増設要求を拒否したため、陸軍大臣上原勇作が辞職して内閣も総辞職におこまれた。

首相を推挙する元老会議は、またも桂太郎を後継首相に指名したが、内大臣兼侍従長になっていた桂が首相になるのは、宮中府中の別を乱すとの批判が高まった。反対運動は拡大して、内閣不信任案が議会に出され、議事堂は民衆に取り囲まれた。1913(大正2)年2月在職50日余で内閣は総辞職した。

次の山本権兵衛内閣は、文官任用令を改正して政党政治家でも高級官僚に赴任できるようにして、政党の影響力を高めたが、海軍の汚職事件で退陣した。

日本史探究 (旧日本史B)

- 問1 鉄道国有法は、何年に成立か、主要幹線の民営鉄道17社の買収国有化の目的はなにか、述べよ。
- 問2 日米新通商航海条約について、年代、推進した人物、意義について述べよ。
- 問3 大逆事件について、年代と、処刑された代表的な社会主義者の名前を述べよ。
- 問4 陸軍大臣の辞職で内閣が総辞職に追い込まれたのは、ある制度のためであるが、その制度の名前と、内容を記載せよ。
- 問5 第3次桂太郎政権への反対運動は何と呼ばれるか。これにより政権が倒れたことは何と呼ばれるか。それぞれ記載せよ。
- 問6 山本権兵衛首相が退陣せざるを得なくなった、海軍の汚職事件の名前を記載せよ。